

合同夏期学校という舞台——札幌東部四教会の例

札幌豊平教会牧師 稲生 義裕

札幌東部四教会

全域において過疎化の進む北海道の中で、唯一の人口増加の一途をたどる札幌市は、今や190万都市と言われるようになった。1890年、現在の北一条教会の前身となる「日本基督一致教会札幌講義所」が開設されてから120年を経た今、札幌市内には、日本キリスト教会の教会・伝道所が8つ在る。この内、市内をほぼ縦に流れる豊平川以東に位置する3つの教会「札幌豊平教会」「札幌白石教会」「森林公園教会」と、隣接する北広島市の「北広島山手伝道所」は、30年来の交わりを築いている。無牧師になった教会・伝道所を支えることで培われた交わりが、四教会共同墓地の建設・管理へと進み、夏期学校の実施を含む年間を通じての合同行事（合同墓前祈祷会・合同夏期学校・合同研修会もしくは交流会・交換講壇・長老相互交流）と2回の四教会協議会を、毎年行なうようになっている。

夏期学校の歴史

書棚のアルバムを紐解くと、牧草の上に眠り野外炊飯・大鍋料理に舌鼓を打つ、いかにも北海道の大地に根差した夏期学校の写真が出てくる。1990年代までは、こうした元気で賑やかな夏期学校が行なわれていたようだ。日曜学校教師も若かったし、多くはないながらも教会員の子や孫を中心に子供達がいる時代であった。しかしその後は、次第に子供達のためであるはずの夏期学校が、僅かの子供と多くの大人が集うものとなった。場所も、子供の活動性を意識すること少なく大人向きのペンションなどが選ばれるようになった。もちろん、こうした夏期学校の変容は、日常の「日曜学校」が開催困難に陥っていったことの表れである。

ほんの少しのチャレンジ

2010年、札幌東部四教会の4年に一回の当番が、豊平教会に回ってきた。豊平教会の日曜学校教師会は、自ら「プチ意識転換」を図った。それは特別なことではない。①「たとえ子供が少なくとも子供中心の子供のための夏期学校を行なう（原点回帰）」、そうでなければ、子供を誘えない。その上で②「子供が少なく、夏期学校を独自開催することの出来ない教会・伝道所に参加を呼びかけることで中会内諸教会の子供に仕える」というものだ。

①については、屋内プールのあるリゾートホテルを会場に選ぶことで、子供達が天候に左右されずにいる存分遊び学べる環境を準備した。合わせて、ゆったり気分で参加なりたい大人の方達が心ゆくまで温泉の楽しみを味わって頂く環境をも用意することもできた。

②については、中会の日曜学校委員会との連携で、中会内の諸教会・伝道所に参加を呼びかけて頂いた。中会日曜学校委員会は、四教会以外からの参加者には一人2000円の補助をして、中会全体を包むこの試みを推進するために後押しをして下さった。

折しも中会には「中会機構の簡素化」という課題のもとで、諸委員会の委員数の減員に合わせて、広い北海道を地区割りして地区毎の交わりと伝道の活性化を期待しようという動きがある。四教会の夏期学校を中会内すべての教会・伝道所の子供たちの場として開く試みは、もともと中会日曜学校委員会が

行なおうとも困難をしていた「全中会規模の日曜学校夏期学校」への展望を、中会機構に依存せずに拓くものでもある。中会日曜学校委員会には、委員の交替によって必ずしも実施ノウハウは蓄積されない。しかし、実施実績を持つ教会は、それを蓄積していく。合同夏期学校を全中会に開くこの一例は、「中会機構の簡素化」「交わりの構築」を考えると重要な実証的提案である。地区割りによって教会の交わりができるものではない。今ある実際の動きを育て、繋げていくことが「交わりの構築」である。個別教会の営みをオープンにする意識転換と、情報相互交換システムの確立が点を線に線に面にする第2の条件だろう。第1の条件は、札幌東部四教会がそうであったように、もちろんシステムではなく相互を繋ぐ人格の存在である。

2010年夏、合同夏期学校を振り返って

合同夏期学校のプログラムは、おそらく日キの定番であるかと思う。1日目は、開会礼拝・オリエンテーション・分級・遊び・風呂・夕食・自由・子供の就寝（祈り）・教師の打ち合わせ・大人の交流。2日目は、朝の祈り・体操・朝食・分級・評価会と閉会の祈り。以上のような1泊2日である。ただ私どもの合同夏期学校に特徴があるとすれば、次の点であろうかと思う。

合同夏期学校のメリットと苦勞

密かに期待する最大のメリットは、子供達に教会の広がりを経験を通して伝えることができることだと思っている。豊平教会しか知らない子が、札幌東部四教会に属する他の教会の子と共に遊び、共に学ぶ。そして更に中会の広がりを感じる。だがこれは、地上の教会の広がりを意識させることに目的があるのではない。やがて時空を超えた御子キリストを頭とする公同の教会を見上げる信仰へと誘うための、地上的・基礎的経験を小さな地上の合同性の中でまずは積んでもらうことだと考えている。長じて、御子キリストのもとに一つとされている公同の教会を思わない者は教会の原点を喪失しているために、地上の教会形成において数量でものを測る誘惑に足をすくわれるからである。

そして、プログラム展開におけるメリットとなり得るのは、四教会合同であるから原則4人の牧師と各教会・伝道所の日曜学校教師・元教師という豊富な人材をもって築き上げることができる点である。子供達への取り組みはもちろんのこと、成人参加者向けに分級を行なうことも、子供の引率者として初めて参加した教会ビギナーの親御さん向けの分級を持つこともできる。様々な可能性が広がる。

次に、苦勞があるかと言えば、日常は会うことのない子供達と夏期学校でいきなり出会うために、名前と顔を短時間で把握することだろうか。昨年の合同夏期学校で、最も神経を使ったのはプールでの安全管理だった。海パンになってプールに入った子供は見分け難い。「あの子は誰?」「○○君はどこ?」という混乱に陥る。そこで、先ず水泳帽に番号を刺繍して子供に着用させ、監視の教師の目が届くようにした。更に40センチ×30センチ程のホワイトボードに複数あるプールを描き、水泳帽と同じ番号を振った1センチ大のマグネットを子供と見立て、子供の位置と動きをボード上でも把握。今どこのプールに誰がいるか、誰がトイレに行ったか、誰と一緒にかなどを、常に把握するよう努めた。この苦勞は報いられて、事故はなく、子供達は大いに楽しんだ。

最後に

豊平教会に繋がる初めの営みは、北星学園創始者スミスさんの「貧民街」での日曜学校であった。百余年を経た今も地域の特性がそうであるのか、否むしろ日本は急激に厳しい経済格差社会に移行したからだろう。日曜学校に集う地域の子供たちは、家に帰っても昼食の恵みに与るわけではない。さすらってすらいる。豊かな(?)教会に閉じこもっていると見えないのだが、多かれ少なかれ、どこでも同様の状況はあることと思う。日曜学校は、「教育」である以前に「保護」であることが求められている。この4月から、分級の後には皆一堂に集い、パンと麦茶でテーブルを囲む喜びに与っている。

夏期聖書学校の紹介—横浜長老教会+横須賀教会の例

横浜長老教会長老 伊藤 明彦^{いとう あきひこ}

1989年から開催している夏期聖書学校は今年2011年で23回目になります。当初は内川橋伝道所を含めて「三教会夏期学校」ということで実施しておりましたが、現在は横須賀教会と横浜長老教会の2教会が中心となり、他に数教会の会員や牧師も参加し、毎年45～50名でよき学びとよき交わりの時が与えられています。

山中湖のYMCAや、函南のフェリス女学院のセミナーハウス（現在は無い）、千葉県印西市の東京キリスト教学園（現在は使用できない）などで実施していましたが、ここ数年は伊豆の天城山荘、御殿場の東山荘などを会場としています。時期は8月第1週、2泊3日です。

夏期聖書学校の参加者は、日曜学校生徒だけが対象ではありません。教会員全員が対象です。乳幼児から高齢者まで参加し、ゆとりのある生活をしつつも、みっちりとして聖書の学びを行ないます。そのため、夏期聖書学校準備会を9月から隔月で開催し、次のように準備を進めています。

夏期聖書学校準備会

奇数月と6月の年7回開催。第3主日の午後3時半から。会場は横須賀と横浜長老を交互に。それぞれの教会の牧師と日曜学校教師が参加します。

9月 反省を行ない、次回のテーマ、聖書箇所、時期、会場などを検討。

11月 テーマをもとにした解題の学び。

1月 解題の学びの深め。聖書箇所の決定。会場予約の確認（時期・場所の決定）。

3月 ワークブックの骨子の検討。

5月 ワークブック文案検討。

6月 ワークブック最終確認。朗読劇検討。プログラムの検討。

7月 参加者の確認。係分担。最終確認。

この準備の中で、ワークブックの作成が最も重要で最もエネルギーを割きます。もう20回以上も実施しておりますので、ワークブック8割、その他の準備1割、当日1割という印象です。ワークブックは、聖書に書かれていることを30～40の問と答でまとめています。ここ数年のテーマと、いくつかの問答を紹介いたしましょう。

2006年「神の国と世界のみだれ」

創世記4章から9章

問4 カインとアベルは、どういう人になりましたか。

答 カインは土を耕す者に、アベルは羊を飼うものになりました。

問23 ノアたちが箱舟に入ったあと、主は何をなさいましたか。

答 主は、箱舟の戸を閉ざしてくださいました。

2007年「神の国と世界のみだれ」第2回

創世記11章から22章

問13 アブラムとロトがわかれた後に、神様は何とおっしゃいましたか。

答 「すべてあなたが見まわす地は、永久にあなたとあなたの子孫に与えます。あなたの子孫は地の塵のように多くなります」とおっしゃいました。

問35 アブラハムがイサクを殺そうとして剣をふりあげたとき主は何とおっしゃいましたか。

答 「その子を殺してはいけない。あなたは、自分のひとり子さえおしまないほど、私をあがめる者であることを知った」とおっしゃいました。アブラハムを見ると、角をやぶにからめて動けない雄羊がいました。そしてこの雄羊をささげものにしました。

2008年「神の支配と神の民の選び」

創世記15章から50章

問18 ヤコブはなぜカナンに帰ることにしたのですか。ラバンはゆるしましたか。

答 主が「帰りなさい」とおっしゃったからです。また主はラバンに「帰ることでよしあしを言うてはならない」とおっしゃったので、ラバンはゆるしました。

問35 ヤコブがエジプトに行く時、主が言われたことは何でしょうか。

答 「エジプトに下ることを恐れてはならない。わたしはあそこであなたを大いなる民族にする。わたしはあなたと一緒にエジプトに下り、また必ずあなたを導き上るであろう」とおっしゃいました。

2009年「神の民の誕生」

出エジプト記1章～14章

問22 ナイル川の水が血に変ったとき、またかえるがエジプト中にあふれたとき魔術師たちはどうしましたか。

答 魔術師たちも同じように行なったので、人々は苦しみました。

問39 主はどのように、イスラエルを助けてくださいましたか。

答 主はモーセに「あなたの杖を上げ、その手を海の上にさしのべなさい。海の水がわかれるから、海の底のかわいたところを進み行きなさい」とおっしゃいました。そしてイスラエルの人たちは紅海を渡りました。

2010年「神の民の誕生 シナイの荒野で」

出エジプト記16章から32章

問3 主はイスラエルの人々にどのように肉とパンを与えましたか。

答 夕方になると、うずらが飛んできて、人々はこれを捕って食べました。朝、おりた露がかわくと、そこに薄いうろこのようなものがあるのを人々は見ました。集めると食べることができました。人々は「これはいったい何だろう」と言いました。

問21 主がおいでになったとき、シナイ山はどうなりましたか。

答 厚い雲が山の上であり、雷が鳴り響きました。ラッパの音がとても高く鳴り響いたので、人々は怖くなりました。そしてモーセは人々を主に会わせるために山のふもとまで連れて行きました。シナイ山は全山煙り、激しく震えました。

聖書の箇所は、結果的に2006年から旧約聖書を順番に取り上げているということになります。ここではノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、モーセという人たちが出てきますが、彼らが何をしたかではなく、主がこの人たちに何をお語りになったか、主がこの人たちを用いて何をなさったかということが大切で、それを意識した問答作りとなりました。

夏期聖書学校の最近のプログラムは次の通りです。

<1日目>

現地集合

14時～	チェックイン	17時	分級
15時30分	はじめの祈り	17時30分	夕食
16時	オリエンテーション	19時	交わりの夕べ
16時15分	お話①	20時30分	部屋ごとの祈り、入浴、就寝

<2日目>

6時30分	起床	12時	昼食
7時30分	朝の祈り	13時20分	ハイキング
8時	朝食	17時30分	夕食
9時15分	お話②	19時30分	朗読劇
10時15分	分級②	20時30分	部屋ごとの祈り、入浴、就寝

<3日目>

6時30分	起床	10時15分	分級③
7時30分	朝の祈り	11時30分	終わりの祈り
8時	朝食	12時	昼食
9時15分	お話③	13時	祈り、解散

「お話」はテーマ・聖書箇所によって3回行ないます。1回45分程度です。子供から大人まで一緒に聞きます。基本的に小学生くらいの子供でも理解できる話ですが、聖書の話ですので大人が聞くにも充分です。

「分級」は概ね年齢によって構成しています。ヤコブの子供たちの名前を分級名とし、「ベニヤミン」が乳幼児のクラスです。分級ではワークブックを基本に聖書の学びを深めますが、それぞれの担当者が対象の年齢の子供たちに合わせて、問答を選んだり、かみくだいたりするなどの工夫をしています。大人の分級は、次のプログラムの直前まで熱心に学んでいます。

1日目の夜のプログラムは「交わりの夕べ」。毎年ほぼ同じメンバーが参加し、また毎週教会で会っているとはいえ、改めて一言ずつ近況を述べ合うと、新たに知ることも多くあります。また夏期聖書学校には「アジアの人を招く」という方針があり、これまでもインドの牧師や韓国からの留学生を招き、よき交わりをしてきましたが、最近ではビルマ（ミャンマー）のカチン族の家族4人を招き、親しく交わっています。そういう人たちや初めての参加者からは少し長く話をさせていただいています。

2日目のハイキングは、宿舎周辺で行ないます。参加者の状況も様々なので、健脚コース、一般コース、散策コースなどに分けて実施しています。一般コースで2時間程度のハイキングです。



「お話」の様子



ハイキングの様子

2日目夜は聖書の物語の「朗読劇」。分級でひとつの場面を担当し、あまり熟演にならないように、また朗読劇であることを忘れないようにと意識しながらも、それぞれ工夫をして発表します。1日目の「交わりの夕べ」の後半は「朗読劇」の分担・打ち合わせ・練習の時間になります。これまで行なった「朗読劇」のタイトルは次の通りです。朗読の一部も紹介しましょう。

「アブラハム」 創世記12章以下

朗読「神は、アブラムを外に連れ出されました。星の明るい夜でした。そして『あなたはこの星の数が言えるか。これがあなたの子孫の数です。言ってごらん』と神はおっしゃいました」

アブラム「星の数は、数えきれません。ですから、その数は言えません」

「ヨセフ」 創世記37章以下

(ヨセフの兄弟が初めにエジプトに行き、帰るときに支払ったはずの代金が袋に入っていたのを見て)

兄弟「こんな不思議なことをしたのは誰だ!？」

全員「神様だ!!」

「出エジプト」 出エジプト記1章以下

パロ「その主とかいう奴はだれだ。何でそいつがわたしに命令するのか、わたしはパロだ、だれの言うことも聞きはしない」

朗読「パロは拒絶した。パロは高慢になりきっていて神に向かってそんなことを言った」

「荒野にて」 出エジプト記16章以下

人々「喉が渴いて死にそうだ。モーセ、おまえがなんとかしろ。おまえが我々をここまで連れて来たのだから」

朗読「モーセは神に祈りました」

モーセ「神よ、助けてください。私はみんなから石で打ち殺されてしまいます」

「エリコ」 ヨシュア記

朗読「七日目、イスラエルの人びとがラッパを吹いてやってきました。この日は7回城壁の周りを回りました。それから皆は大声で叫びました」

全員「わーーーーー！」

朗読劇は途中で詩篇歌を歌い、全部で1時間ほどの発表になります。ベニヤミンクラスの子供たちは、就寝の時間が近いので、早目の出演にしています。



プログラムには余裕があり、会場も使い慣れているので、子供も大人も次のプログラムまでの時間をそれぞれの過ごし方で過ごしています。天城山荘が会場の場合、小学生から高校生までは、余暇の時間はもっぱら卓球をし、楽しく過ごしています。

横浜長老教会の日曜学校生徒は、教会員の子供がほとんどです。乳児から親に連れられて礼拝に出席し、教会で育ってきました。また教会教育の対象は決して求道者や子供たちだけでなく、教会員も学び続けなければいけません。日曜学校には教会員を対象とした分級もあります。このような点が横浜長老教会日曜学校の特徴と言えます。そういうことから日曜学校は、聖書の学びに徹しています。日曜学校礼拝は行なわず、朝会の位置づけである「はじめの会」を10分ほど行なった後、分級は40分行ないます。幼児が聖書物語を聞いて礼拝出席の準備をする「サムエルクラス」、聖書を読み聖書物語を聞く「聖書クラス」、「聖書との出会い」というテキストで学ぶ「ワークブッククラス」、受洗・信仰告白の準備をする「教理クラス」、そして中学生以上の新来会者と教会員を対象とする「グリーンクラス」に分かれて聖書を学びます。そして毎週、乳児から高齢者まで同じ礼拝に出席しています。

そのような教会教育を実施している中で夏期聖書学校は、毎週学んでいる日曜学校生徒にとっても、日曜学校に参加していない教会員にとっても、そしてなかなか礼拝に來られない教会員や子供たちにとっても、まとめてじっくりと聖書を学ぶ大変有意義な機会となっています。



3教会合同夏期学校の報告——中部地区3教会の例

名東教会長老 ^{かねこ}金子 ^{かずお}一夫

去る2010年7月26日(月)～27日(火)岐阜県大垣市上石津町にある緑の村公園宿泊施設「奥養老」において、大垣荒尾教会、大垣教会、名東教会の3教会合同夏期学校が行われました。今年も2日間の時を子供たちと共に神さまに守られて、事故もなく、トラブルもなく主にある交わりが許されたことを感謝したいと思います。

この合同夏期学校は毎年行われているもので、今年のテーマは「誘惑にあわせないでください」(マタイによる福音書4章1～11節)でした。参加者は生徒15名、教師・保護者16名の計31名でした。

毎年6月には3教会合同の教師会を持ち、日曜学校教師全員が集まり、その年の夏期学校の主題およびプログラムの内容等を協議・確認しています。この話し合いに基づきローテーションにより既に決められている当番教会により当日の進行、運営全般を担当することになっています。

かつては大垣荒尾教会と大垣教会が合同で行っていましたが、1987年7月以来名東教会も加わり、現在は3教会合同となっています(最近では亀山教会も加わり、4教会合同の年もある)。したがって、年一度の集会ではありますがほとんど変わらない日曜学校教師が会し、協力体制は定着しているため、良い交わりの中でプログラムは滞りなく進行されています。

ところで、今年の夏期学校のテーマは先にもご紹介したとおり、「誘惑にあわせないください」でした。当初「主の祈り」を順番に学んでいこうということになり、子供たちへのメッセージとして最も適切な表現を6月の合同教師会で検討、協議しています。

2日間という時間的制限のある夏期学校において、子供たちがどこまで深くこのテーマを理解できるかは教師の事前研究と子供への愛情によるものと思いますが、子供の成長に応じたきめ細かい指導を行っていこうという主旨で、食事以外は幼稚科・小学科と中学科とは別プログラムを組んでいます。したがって開会礼拝も個々に別室で守り、幼稚科・小学科の礼拝は大垣荒尾教会の石東岳士教師により、中学科の礼拝は大垣教会の有賀文彦教師により説教がなされました。この試みは子供たちの人数が少ないとは言え、大変重要なことだと思います。

イエス様が荒野で悪魔の誘惑に遭われましたが、悪魔に屈しなかったイエス様こそ私たちの励みであり、このことを忘れずに私たちも勇気を出して悪魔の誘惑から打ち勝つ神さまの導きを信じて日々正しく生きていこうということを学びました。

プログラムの中で、子供たちにとっての一番人気は何と言っても川遊びでした。1日目の礼拝後に近くの川に出向きます。プールとは違った自然環境の中で、水を掛け合ったり、追っ掛けっこをしたり、小さい子は川辺で小魚を捕まえたり、中学生は釣りをしたりと大はしゃぎです。中学生の1番人気は2日目の伊吹山登山でした。9合目まで車で行けますが、その先は自分の足を使わなければなりません。夏とは言え肌寒さを感じながら、また高山植物を観賞しながら頂上を目指します。

毎年、夏休みに入った最初の週に行われる夏期学校ですが、「よく遊び、よく学べ」を大切に、子供たちにとっても神さまという親鳥の翼の中で守られている小鳥たちのように平安とやすらぎの2日間であったと思います。

